

LMEアル
ミ相場

上値は一、

九〇〇ドルも

橋本健一郎氏リポート②

■概況

三月前半は、ブーチン大統領が軍事演習中の部隊に駐留地への帰還を指示したと伝えられたこと、ウクライナへの軍事介入について「今のところ必要ない」と述べたことから、米欧とロシアの対立が深まるとの懸念がやや後退。また中国の全人代が開幕し、今年の経済成長目標を七・五%と前年から据え置いたことや、二月のHSBC中国サービス部門PMIは五・一に上昇するなどプラス材料もあったが、二月の製造業購買担当者景気指数(PMI)が三カ月連続で前月の水準を下回り、一、二月の中国の工業生産高や小売売上高、農村除く固定資産投資が市場予想を下回ったことからLMEアルミ相場は下落、一、六九六ドル(現物後場買い)と前月最終価格から二八・五ドル下げての前半締めとなった。

後半はブーチン大統領がウクライナ分割は望まないと発言したこと、英小売売上高の増加、米4QのGDPが上方修正、米失業保険申請件数の減少、原油急伸で買い戻し、月末、四半期末の買い戻しも入り上昇したことや、注目のHSBC発表の中国製造業PMI指数が四八・一と二月の四八・五から低下し八カ月ぶりの低水準となったことから下落したが、中国・李首相が景気刺激策を講じる可能性に言及したことからLMEアルミ相場は上昇、四月一日現在、LMEアルミ(現物後場)一、七四三ドルと、前半締めから四七ドル上昇してのスタートとなった。

■前月の経済指標

●月間のドル/円レート(TTM)
一〇〇・九六→一〇二・一七(円)

●自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比七・一%増の八六万三、三九七台であった。

●自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一七・八%増の四八万一、〇三九台。

●新設住宅着工戸数

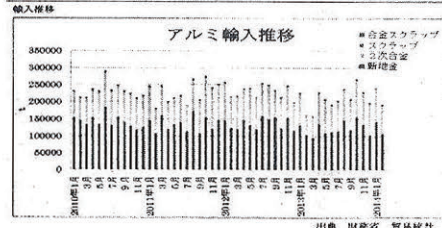
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一%増の六万九、六八八戸であった。

国内アル
ミ市場 需給は引き締まったままか

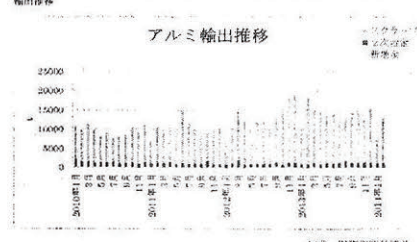
◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニウム合金が前年比一三九・二%増の一三二・二、二次合金が六〇・三%増の一、二〇四・一、スクラップが三三・四%減の一、六九八・一。輸入は新地金が前年比二・九%増の一〇万六、六二〇・一、二次合金が五〇・〇%増の八万二、八五六・一、スクラップが六・五%増の七七〇・一、合金スクラップは四四・一%増の四、七三・一。

輸入	12月	1月	2月
新地金	10万2410t	14万1859t	16万6629t
前年比	-11.5%	+7.7%	+2.9%
二次合金	9万463t	9万4810t	8万2856t
前年比	+11.8%	+3.9%	+50.0%
スクラップ	797t	743t	770t
前年比	+17.9%	-35.4%	+6.5%
合金スクラップ	3664t	4097t	4273t
前年比	+67.9%	+24.3%	+44.1%



輸出	12月	1月	2月
新地金	126t	175t	122t
前年比	-11.3%	+41.1%	+139.2%
二次合金	1214t	985t	1204t
前年比	10.1%	+33.0%	+60.3%
スクラップ	14145t	6361t	11698t
前年比	-22%	-50.2%	-33.4%

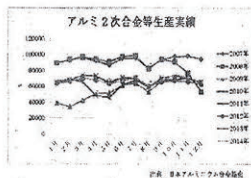
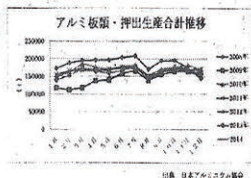


■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比三・一%増の一五万八、五二三・一。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比〇%増の六万九、一二八・一であった。(六面へ続く)

(四面より続く)



■見通し

三月は消費増税前の駆け込み需要と前月からの中国の理財商品問題およびウクライナ情勢の緊迫化に一喜一憂した月となった。

自動車生産は前年比七・一％増の八六万三、三九七t。六カ月連続プラス。乗用車七四万一、三七六台で五万一、七四四台・七・五％の増加となり、六カ月連続のプラス。トラック一〇万九、九七七台で五、〇八五台・四・八％の増加となり、八カ月連続のプラス。バス二万四、〇二四台で三五七台・三・一％の増加となり、三月月連続のプラス。国内需要は五六万五、一七〇台で、前年同月比一八・四％の増加。輸出は前年同月比六・〇％の減少。(実績)

自動車販売の方は七カ月連続前年超えの四八万一、〇三九台、前年比一七・八％増。うち乗用車一七・一％増。貨物二二・六％増。バス一四・三％増。新設住宅着工戸数は先月に続き一八万月連続増加前年比一％増(季節調整済み前月比六・九％減)の九一・九万戸。

リーマンショックを受けた大幅な下落(平成二十一年度)以降、緩やかな持ち直し傾向が続く中、このところ、消費マインドの改善等もあって、堅調に推移してきたが、足元では、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動もあって、増勢が鈍化している。今後の先行きについては、雇用・所得環境の推移、東日本大震災からの復興状況、建設労働者の需給状況、住宅ローン金利の動向等を引き続き慎重に目極める必要がある。(持家)

前年同月比では一八万九千の減少(前年同月比四・四％減。季節調整値の前月比七・八％減。)

前年同月比では一八万九千の減少(前年同月比四・四％減。季節調整値の前月比七・八％減。)

前年同月比では一八万九千の減少(前年同月比四・四％減。季節調整値の前月比七・八％減。)

前年同月比では一八万九千の減少(前年同月比四・四％減。季節調整値の前月比七・八％減。)

前年同月比では一八万九千の減少(前年同月比四・四％減。季節調整値の前月比七・八％減。)

前年同月比では一八万九千の減少(前年同月比四・四％減。季節調整値の前月比七・八％減。)

前年同月比では一八万九千の減少(前年同月比四・四％減。季節調整値の前月比七・八％減。)

前年同月比では一八万九千の減少(前年同月比四・四％減。季節調整値の前月比七・八％減。)

前年同月比では一八万九千の減少(前年同月比四・四％減。季節調整値の前月比七・八％減。)

車販売台数の好調により六カ月連続でプラス(二月の新車販売台数は五万五千台、対前年同月比一八・四％増)。

③輸出 一万三、七三〇t

中国、東南アジア向けを中心に需要は低調で、一二月月連続でマイナス(通関統計による二〇一三年十月十二月期の中国向け輸出一萬二、〇四五t、対前年同月比二二・八％減)。

(押出)

①建設四万二、五八〇t(二一・六％増。新設住宅着工戸数の好調を受け、九カ月連続でプラス(二月の新設住宅着工戸数七万七、八四三戸、対前年同月比二一・三％増)。

②自動車一萬一、五〇五t(七・〇％増、板類と同様の動きであり、六カ月連続でプラス)。

輸出は新地金が前年比二二・九％増の二二二t、二次合金が六・〇％増の一、二〇四t、スクラップが三・四％減の一、六九八t。割安感のあるスクラップ以外は円安を背景に輸出増との見解。

輸入は新地金が前年比二・九％増の一〇万六、六二〇t、二次合金は五・〇％増の八万二、八五六t、スクラップは六・五％増の七七〇t。合金スクラップは四四・一％増の四、二七三t。消費増税前の駆け込み需要もピーク、自動車関係を中心に好調な内需から輸入増。

住宅関連は新設住宅着工戸数が前年比一％増の一八万月連続増加、持家四・四％減、貸家二四・七％増分譲マンション三三・五％減と大幅減少。

消費増税前の駆け込み需要も終了したのか、上昇幅が先月の一八％から一％に急減。来月の動向に注視したい。自動車は生産が六カ月連続上昇七・二％増。ただし三月の国内販売台数が前年比一七・八％増と大幅増前月に続き増税前の駆け込み需要で販売は大幅増だったが、生産は増加幅が先月の約半分。

消費増税前の駆け込み需要の反動から住宅、自動車需要の二本柱が減少傾向にある。

為替が前月から引き続き一〇・一〜一〇・二円近辺と円高が継続している中、自動車関係を中心としたアルミに関しては駆け込み需要の反動はあっても、慢性的な供給不足から需給は引き締まったままとの見解。

アルミ価格に関して

今月も中国の動向およびウクライナ情勢に左右される。中国の動向に関しては三月の中国HSBC製造業PMI速報値は四八・一に低下、八カ月ぶりの低水準になったことを受けて、中国の李首相が経済成長は合理的なペースを維持するべきと発言したことから景気刺激策に対する期待が高まり、センチメントも改善したと判断。

ウクライナ情勢に関してはドイツ首相府の発表によれば、ロシアのプーチン大統領が三十一日に行われたドイツのメルケル首相との電話会談で、ウクライナとの国境地帯に展開しているロシア軍の一部撤退を命じたことを明らかにしたこと、四月中旬には沈静化に向かうと判断。

それらを踏まえたアルミ価格、上値は、中国が景気刺激策を出し、ロシアがウクライナからの撤退をした場合、三月高値のもう一段高の一、九〇〇ドルを予測、いずれかの場合は一、八〇〇ドル。

下値は前記の景気対策やウクライナ情勢の緊迫化が続いた場合、三月も二段安値、一、六五〇ドルを予測。為替TMMは前記の景気対策やロシア軍の撤退が行われた場合、下値はドルユーロ高円安から三月安値の一〇三四円、上値は、景気対策や撤退行われなかった場合、失望感から一〇一円まで円高が進むとの予測。